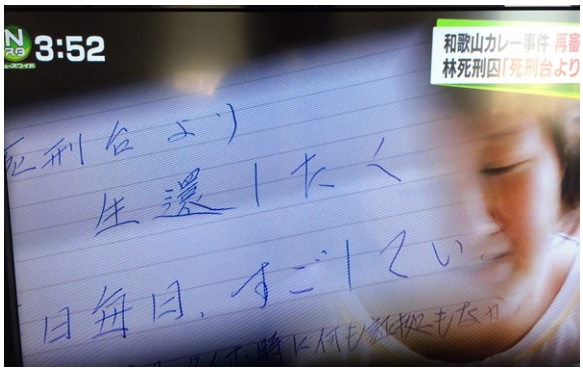
和歌山カレー毒物事件　林真須美死刑囚の表の顔と裏の顔

和歌山毒物カレー事件とは、1998 年 7 月に和歌山市で 4 人が死亡したカレー毒物混入事件。
3 月 29 日、和歌山地裁は林死刑囚の請求を棄却し、再審の開始を認めない決定を出しました。
[MBS ニュースより　http://www.mbs.jp/news/kansai/20170329/00000043.shtml]

この事件が起きて、もう 19 年も経つんですね。
林真須美の顔を初めて TV で見たとき、細やかではないかもしれないけど、
頼りがいのある感じのいいお姉さんという印象でした。
その後、ニュースで様々な報道を見るにつけ、恐ろしい人だと判明していくわけですが、
それを見て、「なるほど」と納得しつつも、なんとなく違和感がありました。



今回ご紹介する筆跡は、3 月 29 日に再審請求が
棄却された後、息子に送った手紙の文字です。
この筆跡を見て、違和感の理由がわかりました。

一般に筆跡の特徴にはあまり矛盾は起きないのです。
たとえば、筆圧の強い人(エネルギッシュ)は、たいてい字も
大きい(行動力がある)とか、
分析していくと、その人を構成している要素が紐解かれる
ものなのですが、
林真須美の筆跡には単純に分析できない要素が盛りだくさんだったのです。

林真須美の筆跡はいろいろな特徴があり、一言でいうと落ち着かない印象の文字です。

1．　右上がりが強い

右上がりの文字は勢いのある前向きな人が書く文字の特徴です。
右上がりが強いととがった印象がありますが、組織に忠実で味方につけると百人力な人。

2．　相反する特徴がいくつもある

のんびりかと思えばせっかちになったり、素直と思えば我が強くなったり、優しい面とそっけない面があったりするので、一貫性に欠ける印象がある。

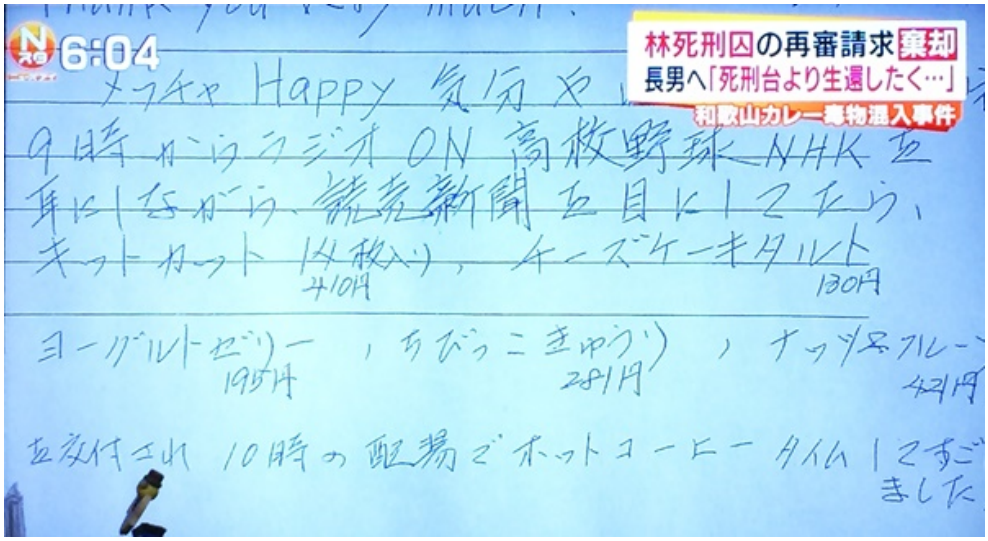
3．　投げやりな印象

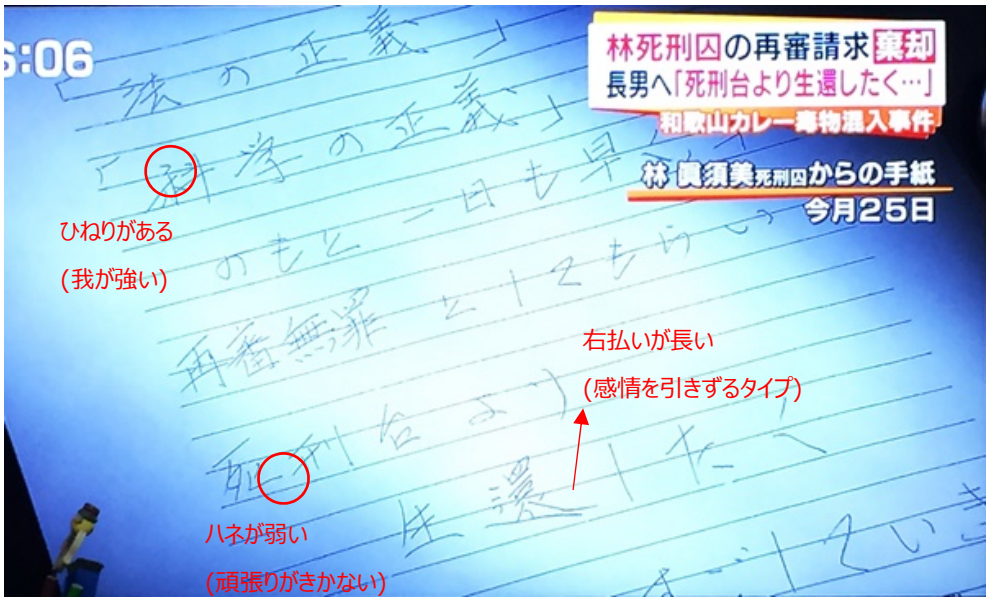
林真須美の筆跡は、決して弱々しい人の字ではありません。しかし、粘り強く頑張るとかていねいに行動するとか、そういう印象はありません。

«ご注意»　この素材の写真は TV から撮影したものです。印刷して配布するなどはご遠慮ください。

林真須美死刑囚の文字は**右上がりが強く**、一部を除き**文字間が広い**ので、
前向きで行動力があり、比較的おっとりした人、フットワークが良く愛情深い、目立つ存在の人です。

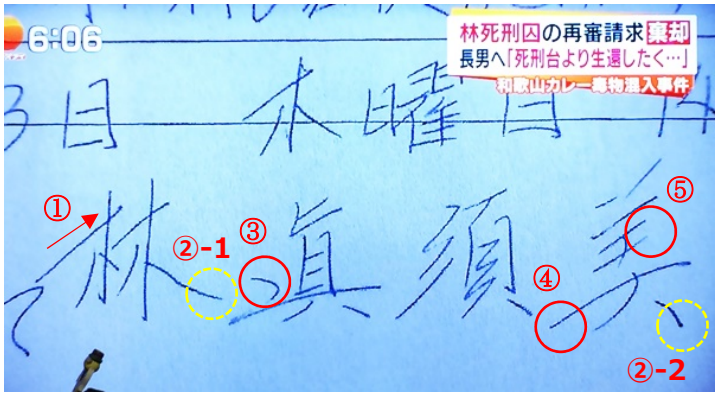
本来はゆったりした印象になるはずなのに、書きながら行がずれていったり、
表記に統一性が見られないことから、落ち着かない印象になっています。
そこから気分にムラがある人であることがわかります。
理論派でなく感情で動く強いタイプの人なので、気が急いてイライラしたりすると、
愛情が執念に変わったり、かと思えばそっけなくなったり、理解不能な人と想像します。





かなりていねいに書かいた(と思われる)こちらのメッセージは、思いを込めて書いているはずなるのに
説得力がないように見えるのは、我が強く粘着性があるのに頑張りが足りないという、
相反する矛盾を抱えた生き方によるものです。
一般に、強い気持ちを持っている人の文字は、やり遂げようとする気持ちが自然に
力のこもったハネの強い字になることが多いものなのです。
しつこいくせに投げやりな面があるのが、林真須美の文字の大きな特徴です。

«ご注意»　この素材の写真は TV から撮影したものです。印刷して配布するなどはご遠慮ください。



名前、立派に書いていますね。
たった４文字ですが、以下のような個性が現れています。

①　右上がり(前向きで勢いがある)
②　-1　右払いが長い（感情を引きずる）　-2　右払いが短い（割り切りが早い）
③　ひねり（我が強い）
④　左側の線が長い（才覚がある）
⑤　トメが弱い（クロージングが弱い）

興味深いのは、「眞」と「須」に同じくある「目」が、一方は楷書で、他方は行書で書いていること。
楷書は、「それはそれ」と割り切るタイプ、行書は人と人のつながりを大事にする人。
他にも右払いの長さの違い（しつこさとそっけなさ）など、林真須美が複雑な人とわかります。
さらに、名前が大きく書かれています。他の文字より自分の名前を大きく書く人は、自尊心の高い人。
自分に自信のある人です。死刑囚になっても反省するというよりは「私はここにいます！見て！」
と、自己アピールの気持ちが強いことを表しています。
複雑な面を持った我の強い人、これが林真須美の特徴といえます。

■まとめ

林真須美死刑囚は、本来明るく元気で人を惹きつける魅力を持った人だと思います。
しかし、心の状態が悪くなると投げやりで粘着性や我が強くなり、目の前のことに執着してしまう。
感覚人間なので、先を読むことも苦手、なので、妙に明るくなったり暗くなったりする「気分屋」。
（1 枚目の文体と、2 枚目の文体の変化は、同時に送られた手紙とは思えません）
いくら才覚や魅力があっても成功できない人は「再現性」が欠ける特徴があります。
Vol.2 の澤穂希さんの文字には再現性やリズム感があり、安定した印象がありました。

私も気分屋だと思う人は、ゆっくりとていねいに、自分を大事にするつもりで名前を書く。
安定感を出すには、ある程度の練習も必要かもしれません。
一流の人は、最高の結果を出すためにコツコツと努力や練習を積み重ねています。
無意識に安定感のある文字（うまい字とは違います。あなたらしさが現れていい）を
書けるようになったら、それは自信につながり、成果も出せるし、心の平穏にもつながりますね。
そして、自分の字（自分そのもの）を好きになることも大事です。

«ご注意»　この素材の写真は TV から撮影したものです。印刷して配布するなどはご遠慮ください。